

穹蒼高く

(大正五年南寮寮歌)

長崎次郎君 作歌

黒住須賀夫君 作曲

一

穹蒼高く夜は深く

沈黙の森に聳えたつ

桂の梢指すところ

北斗の冴に君見すや

「吾が若人よ汝が野心

われにかも似て崇くあれ」

二

荒ぶ吹雪のもだすとき

六片の花咲くところ

咬たる天地塵絶えて

塞つる力を君よ知れ

「吾が若人よ北の曠野に

身を練り魂を磨かずや」

三

谷間の百合の香のゆらぎ

楡の若葉に陽はこぼる

春の息吹に渡り行く

時鐘の響に君よ聴け

「吾が若人よ石狩は

自由の郷土ぞ幸多き」

四

百鳥歌ひ花は笑む

美しき国の自治の家に

十一の春今日来る

祝歌たかく君歌へ

「迪に恵ふ若人の

住家よ永に栄あれ」

五

崇きのぞみを星に懸け

鐘に自由を学びつつ

真理を求むる一百の

健児が行手遠けれど

吾若き力強ければ

羸む秋は近からむ

など羸ざる事あらん